

2014 年 11 月 27 日

阪神・淡路大震災 20 年特別企画ゼミナール開催

～自治体の災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」～

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(本社:東京都港区 社長:藤井 秀延)は、自治体の災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」をテーマとした阪神・淡路大震災 20 年特別企画ゼミナールを共催(主催:神戸大学都市安全研究センター、神戸大学社会科学系教育研究府)いたしますので、お知らせします。

本ゼミナールは、2 回(2014 年 12 月 19 日、2015 年 1 月 23 日)にわたって開催し、阪神・淡路大震災や東日本大震災等、近年発生した大規模災害における応急・復旧対応に係わって来られた実務者や研究者の方をお招きして、災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」方法について検討します。この検討が、南海トラフ地震等の今後発生しうる大規模災害への備えとして、実行性のある災害対応体制の構築につながることを期待します。ゼミナールの詳細につきましては別紙をご覧ください。

【第 1 回】阪神・淡路大震災から 20 年:「伝える」「育む」ために必要な取り組み

(開催日時) 2014 年 12 月 19 日(金)14 時～17 時 / (場所) 神戸大学百年記念館六甲ホール

阪神・淡路大震災の被災地において、行政職員が世代を超えて当時の経験・教訓を伝え、育んでいくための取り組みの現状と課題について検討します。

【第 2 回】地域・世代を超えて「伝える」「育む」ために必要な取り組み

(開催日時) 2015 年 1 月 23 日(金)13 時 30 分～17 時 / (場所) 神戸国際会議場 国際会議室

阪神・淡路大震災と東日本大震災の被災地において、世代と地域を越えて、災害対応の経験・教訓を伝え、育んでいくための取り組みの現状と課題、及び今後の展望について考えます。

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
政策研究事業本部[大阪] 秋元 康男、梨子本 千絵子
〒530-8213 大阪市北区梅田 2-5-25 ハービス OSAKA
TEL:06-7637-1460

神戸大学都市安全研究センターRCUSS オープンゼミナール ひょうご防災リーダーOB公開講座

阪神・淡路大震災 20 年特別企画

自治体の災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」

◇ 企画意図

阪神・淡路大震災から 20 年が経過し、被災した自治体では、震災当時の経験・教訓を伝えることが困難になってきています。

また、単に一方的に伝えるだけではなく、伝えられた世代は、経験・教訓を生かして、次なる災害対応の在り方を検討し、自らの実となるものへと育んでいくことが求められています。

特に以下3つの「伝える」「育む」ことに着目する必要があると考えられます。

- ① 害対応の核となる行政職員が世代を超えて経験・教訓を「伝える」「育む」こと
- ② 害対応を行う自治体職員のパートナーである市民が、世代を超えて経験・苦労・教訓を「伝える」「育む」こと(=それを支援するために行政が市民と協働で実施できること)
- ③ 害対応時に共通して課題となることを解決できるように、世代や地域を越えて経験・苦労・教訓を「伝える」「育む」こと

本ゼミナールでは、第1回で、上記の①に対応する話として、阪神・淡路大震災後の応急・復旧そして復興・予防の対応に係わって来られた実務者・研究者の方をお招きして、行政職員が世代を超えて当時の経験・教訓を伝え、育んでいくための取り組みのあり方について検討します。

そして、第2回では、上記②と③に対応する話として、阪神・淡路大震災の被災地と東日本大震災の被災地の双方から、同じく実務者や研究者の方をお招きし、地域や世代を越えて「伝える」「育む」ことの課題とその解決策のあり方や展望を考えます。

2 回のゼミナールを通じ、国内の大規模災害の被災地が一体となって、当時の災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」方法を検討し、この検討が、南海トラフ地震等の今後発生しうる大規模災害への備えとして、実行性のある災害対応体制の構築につながることを期待します。

◇ 概要

対象	行政関係者、研究者、一般市民(第1回 200 名、第2回 240 名)
日時/会場	第1回:2014 年 12 月 19 日(金)14 時～17 時 /神戸大学百年記念館六甲ホール 第2回:2015 年 1 月 23 日(金)13 時 30 分～17 時 /神戸国際会議場 国際会議室
主催	神戸大学都市安全研究センター、神戸大学社会科学系教育研究府
共催	兵庫県広域防災センター、神戸市、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社

※ 第2回は、神戸市・一般財団法人神戸国際観光コンベンション協会・公益財団法人神戸都市問題研究所主催「第 8 回災害対策セミナーin 神戸」の「防災関係団体主催シンポジウム・セミナー」の一企画として実施します。

◇ 特別企画 第1回 プログラム

テーマ：阪神・淡路大震災から20年：「伝える」「育む」ために必要な取り組み

日時：2014年12月19日(金)14時00分～17時00分

場所：神戸大学百年記念館六甲ホール(定員200名)

(1)開会(14:00～14:05)

本ゼミナール特別企画の趣旨について

神戸大学都市安全研究センター長 北後 明彦

(2)基調講演(14:05～15:00)

「阪神・淡路大震災から20年を経て伝えていくことの難しさ」

神戸大学名誉教授 兵庫県立大学防災教育センター長 室崎 益輝

(3)課題報告(15:00～15:15)

「教訓を伝えることに関する被災自治体職員の現状認識と課題」

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

防災・リスクマネジメント研究室 主任研究員 平野 誠也

(4)取組報告(15:15～15:35)

「持続的・継続的に「伝える」「育む」ためにはじまった取り組み」

芦屋市 都市建設部防災安全課長 柿原 浩幸

====休憩(15分)====

(5)パネルディスカッション(15:50～16:50)

「阪神・淡路大震災の災害対応から得た「伝える」「育む」こと」

◆コーディネーター:

神戸大学名誉教授 兵庫県立大学防災教育センター長 室崎 益輝

◆パネリスト:

神戸市 危機管理室 総務担当課長 藤重 敏郎

西宮市 都市局建築・開発指導部 開発指導課長 畑 文隆

芦屋市 都市建設部 防災安全課長 柿原 浩幸

(6)開催御礼挨拶(16:50～16:55)

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 常務執行役員 図司 忠之

(7)閉会(16:55～17:00)

とりまとめ及び第2回開催の連絡

神戸大学都市安全研究センター長 北後 明彦

◇ 特別企画 第2回 プログラム

テーマ：地域・世代を超えて「伝える」「育む」ために必要な取り組み

日 時：2015 年 1 月 23 日(金) 13 時 30 分～17 時 00 分

場 所：神戸国際会議場 国際会議室(定員 240 名)

(1)開会(13:30～13:40)

本ゼミナール特別企画の趣旨及び連続1回目の内容の振り返り

神戸大学都市安全研究センター長 北後 明彦

(2)特別講演(13:40～14:30)

「東日本大震災から3年:「伝える」ために始まった取り組みと今後の展望」

気仙沼市長 菅原 茂

(3)基調講演(14:30～15:10)

「東日本大震災時の災害対応時における教訓と課題」

石巻市 産業部長 木村 伸

====休憩(10 分)====

(4)パネルディスカッション(15:20～16:40)

「持続的・継続的に「伝える」「育む」ための取り組みと今後のあり方について」

◆コーディネーター:

神戸大学 社会科学系教育研究府(大学院国際協力研究科兼務)特命准教授 紅谷 昇平

◆パネリスト:

気仙沼市長 菅原 茂

石巻市 産業部長 木村 伸

人と防災未来センター 研究主幹 宇田川 真之

兵庫県 広域防災センター長 上り口 豊

芦屋市 企画部市長室長 今石 佳太

(6)開催御礼挨拶(16:40～16:50)

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 取締役社長 藤井 秀延

(7)閉会(16:50～17:00)

神戸大学都市安全研究センター長 北後 明彦

以 上